

蚕神(かいこがみ)の起源

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

収蔵品展「おふだ大集合Ⅱ 一絵札(えふだ)と御影(みえい) 描かれた神仏一」(会期：令和 6(2024)年 3 月 17 日ー5 月 12 日)では、養蚕で信仰された神(蚕神)の絵札・御影・掛軸も取り上げました。展示した蚕神は①『古事記』『日本書紀』の神話に登場する神々(図 1)、②馬鳴菩薩(めみょうぼさつ 図 2)、③衣襲明神(きぬがさみょうじん 絹笠大神〈きぬがさおおかみ〉とも 図 3)の 3 種です。これらの蚕神について、その起源と信仰されるに至った経緯を調べてみました。研究者により唱えられている説を紹介します。

①のその姿は、平安時代中期に完成したとされる成人女性の正装である十二単(じゅうにひとえ)を装い、桑の枝を手に持つのが特徴です。具体的な神名として、木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)・保食神(うけもちのかみ)・豊受大神(とようけのおおかみ)・大宜都比売神(おおげつひめのかみ)が挙げられます。養蚕起源神話の主役として描かれたり、機を織る場面が記されたりした女神達です。これら記紀神話の神々は、江戸時代に国学で神道が研究されるまでは広く知られておらず、明治時代に養蚕業が盛んになり蚕神とされたようです。

②の馬鳴菩薩は、元々は 1-2 世紀に実在したインドの著名な仏教詩人・哲学者・大乘仏教学者で、男性です。

図 2 は、騎乗した六臂の馬鳴菩薩です。手に繭秤・蚕・糸杵・桑の枝・鳥の羽・生糸など、養蚕に関係する物を持ち、その髪型や服装から女性に見えます。紀元前 3 世紀頃成立した『荀子』の『蚕賦』では蚕に関し、“その身は女子のように柔らかく頭は馬の首なる者か”と記しており、遥か昔から蚕は女性と馬に結びついていました。また、4 世紀頃成立した『搜神記』(そうしんき)に収められている蚕女伝説も、娘の父に殺された馬の皮が娘を包んで連れ去り、娘と馬の皮が蚕に変身したという話です。このように蚕・娘・馬の強い結びつきを背景に、中国の養蚕地域にて、馬鳴菩薩の名に含まれる「馬」が蚕を連想、女性化して蚕神となった可能性が指摘されています。日本には馬鳴尊像として中国で 9-12 世紀に成立、流布したものもたらされたと考えられています。

③の衣襲明神の衣服は中国風であり、右手に蚕種(さんしゅ 蚕の卵)、左手に桑の枝を持ち、頭に巻絹を載せています。図示したものは「蚕大明



図 1 ①記紀神話に登場する神(大宜都比売神か)



図 2 ②馬鳴菩薩



図 3 ③衣襲明神

神」と記されていますが、その姿から絹笠大神を絵札の図像にしたものと考えられます。衣襲明神の元となったのは、金色姫(こんじきひめ)の説話です。16 世紀半ばの『戒言』(かひこ)の写本に記されている金色姫の話の粗筋は次のようなものです。北天竺国(ほくてんちくこく)の中の旧仲国(きゅうちゅうこく)という国の金色姫は、継母に 4 度殺されそうになるが無事でした。しかし父である王は姫を憐れみ、桑の木で作ったうつぼ船に姫を乗せ沖に押し出し、うつぼ船はやがて常陸国の豊良浦(とよらのうら)に流れ着きます。浦の住人に助けられるも姫は病死しますが、姫の遺体が蚕に変身、その蚕から糸を採ったのが常陸国の養蚕の起源であるという話です。その後、衣襲明神は江戸時代の錦絵に描かれます。錦絵の撰文は曲亭陳人(滝沢馬琴)で、「・・・(前略)桑蚕(かいこ)の祖神(みおやのかみ)にして常陸国鹿嶋郡日向川村蚕霊山千手院星福寺に立せたまふ(後略)・・・」とあり、現茨城県神栖市日川の星福寺で祀られていることを記しています。衣襲明神は絹笠大神と表記され、錦絵・掛軸・刷物が多く作られたとされています。養蚕の指導書である蚕書の挿絵や、正月に養蚕に関わる縁起物として売られた初絵、富山の売薬と共に配られる刷物なども確認されているようです。

金色姫の話は、いつどこで成立したかは不明ですが、星福寺(及びその近傍の蚕霊神社〈こだまじんじゃ〉)だけでなく、現茨城県内の蚕影神社(こかげじんじゃ 現つくば市)・蚕養神社(こかいじんじゃ 現日立市)など養蚕信仰の中心的神社の縁起に取り入れられ、茨城県を中心に岩手県から山梨県・長野県まで広がったようです。

【主要引用・参考文献】

伊藤智夫『ものと人間の文化史 68-I・絹 I』財団法人法政大学出版局 平成 4(1992)年

荒川理恵『『古事記』における養蚕起源神話一馬と蚕をめぐって』『学習院大学上代文学研究』19

学習院大学上代文学研究会同人 平成 6(1994)年

樋口淳・陶雪迎「馬娘婚姻譚の日中比較」『専修大学人文科学研究所月報』196 専修大学人文科学研究所 平成 13(2001)年

遠藤純祐「馬鳴曼荼羅成立の背景について」『現代密教』14 智山伝法院 平成 13(2001)年

吉井勇也「蚕神社の基礎的研究ー『上野国神社明細帳』の分析からー」『常民文化』31 成城大学 平成 20(2008)年